

合計
新聞 千百人
雜誌 三百六十八人

政談演說ノ狀況

岐阜縣内ニ於テ政談演說ヲ為スモノハ改進黨自由兩黨負
テ元昨年来各黨互ニ睥睨シ其軋轢ヲ演說ニ訴フルノ
色アリ然ルニ自由黨負ノ演說ハ踈暴過激ニシテ傍聴者
多シト虽モ輕躁ノ徒ノミ改進黨ノ演說ハ頻リニ着実ヲ
勤ムルヲ以テ浮薄ノ徒ハ之ヲ喜ハスト虽モ却テ着実ノ
士ハ耳ヲ傾テ默聽スルモノ多シト云フ昨十五年中ハ開
會度数五十度開會場所十八ヶ所演題二百二十八題并士
六十七人解散ヲ命シタルト五度ナリ本年一月ヨリ三月
ニ至ル開會度数五度開會場所三ヶ所演題二十題并士十
二人ニシテ解散ヲ命セシトナシ本年一月ヨリ六月ニ至
ル演說度数ヲ昨年ニ比スレハ五分一ニ過キス亦以テ演
說流行スルノ時期已ニ經過シ了ルヲ知ル茲ニ縣令ヨリ

政談演說

差出シタル政談演説景況書開會表并士姓名表等ヲ附シ
テ參觀ニ供ス

政談演説ノ景況及ヒ重立タル辨士ノ姓名

一政談演説會ノ舉ハ去歲以來屢々頻リナリ就中廳下近
傍及ヒ東方惠那郡中津川地方西方安八郡大垣地方ニ
於テスルモノ多キニ居ル蓋シ管内ノ士民世ノ風潮ニ
從テ政事ノ志想ヲ抱ク者多クハ此三地方ニ在リ其他
ノ山村僻邑ニ至リテハ一二ノ其人ノレナキニ非サレ
氏要スルニ識見狭小三地方ノモノニ若カス是レ此地
方演説會ノ多キ所以ナリ今之レカ會主トナリ并士ト
ナルモノ、一二ヲ舉グルレハ惠那地方ニ在テハ高木勘
兵衛安田節藏林淳一等ノ徒ニシテ安八地方ニ在テハ
早川啓一佐久間國三郎渡邊權次郎等ノ輩ナリ而シテ
廳下近傍ニ在テハ馬淵共曹田島鹿之助本多政直等ナ
リ必竟此等ノモノハ多クハ政黨員別紙政黨部ニシテ
ノ名簿參看

其演説スル所ノ主意ハ谷異同アリト雖モ要スルニ人
ヲシテ政治ノ思想ヲ興起セシメントスルニ在リ近來
ハ又自由改進兩党相睥睨シテ殆ント軋轢ノ色ヲ現ハ
シ之レヲ演説ニ訴フルモノ、如シ又曾テ改進主義ヲ
以テ自唱スル政黨日日新聞社員等モ時ニ或ハ演壇ニ
登リ又東京全主義ノ社友ヲ聘シテ之ヲ為ス、アリ野
文雄尾崎行雄等ノ未ル其然レモ此輩ノ演説ハ議論高
一ナリ詳ニ別表ニ載ス
尚言語正肅ニシテ嘉リニ危激ノ語ヲ放テ以テ躁進者
流ノ喝采ヲ博セント欲スル他ノ自由黨員等ノ如キ松
乃ノ一ナキカ故ニ着實ノ士ハ耳ヲ傾ケテ之ヲ聽クト
モ浮薄ノモノハ喜ハサル如シ是レ等ノ演説ハ絶ヘテ
差向憂ヲ惹起スルニ足ラス之レヲ要スルニ縣下後來
ノ演説ハ言論過激ニシテ彼國安ヲ妨害スルニ足ル如

キ、ハ甚ク希レナリ、然レモ一二條例ニ觸レ又ハ刑
法ノ向フ所トナリタルモノアリ左行ニ率テ參觀ニ供
シ并セテ別表ヲ具ス

演説過激ニシテ集會條例又ハ刑法ニ觸レ解散ヲ命
シ又ハ處断ヲ經タルモノ昨明治十五年中ニ在テハ
僅ニ三人即左ノ如シ

石川縣平民

一禁止 十五年二月廿八日ヨリ 段 證 依 秀

右ハ明治十五年二月廿一日飛彈國大野郡高山
町ニ於テ開會シタル節國安ニ妨害アリト認め
ス 禁止

縣下方縣郡平民

一重禁錮一年六月罰金百圓 後 藤 秀 一
監視一年

右ハ明治十五年五月七日不致郡赤坂村ニ付如頭ヲ
演說中刑法第百四十一條ヲ犯スモノノ付如頭ヲ
書岐年輕罪裁判
所ニ於テ宣告

長野縣平民

一重禁錮三月罰金三十圓 内山重一郎

一禁止ヨリ一ヶ月間 日

右ハ明治十五年十月廿八日惠那郡中津川村ニ
於テ演說中刑法第百四十一條ニ觸レ岐阜輕罪
裁判所ニ於テ頭各ノ通リ宣告猶同年
十一月廿一日頭各ノ通リ申渡

明治十六年六月迄ニ在テハ僅ニ二人即左ノ如シ

縣下厚見郡士族

一禁止一ヶ月間全國內ヨリ 岩田徳義

右ハ明治十六年一月廿三日内務卿ヨリ達アリ
全廿九日頭各ノ通リ申渡ス

福井縣士族

一罰金二圓 高井恪太郎

右ハ明治十六年四月十五日安八郡南類村ニ於
テ學術演說中政談ニ涉リタルヲ以テ岐阜輕罪
裁判所ニ於テ罰金ニ處ス
日頭各ノ通リ

明治十五年 自一月至十二月 政談演說會一覽表

表中演說者ノ欄に名ノ上ニ数字ヲ示スルハ、演說者ノ人数ヲ示シ、下ニ数字ヲ示スルハ、演說者ノ人数ノ再演ノ数字ヲ示ス

開會日 會場 演題 演說者 聽衆概數 解散度數

一月七日 各務郡前洞村

一 人民共同主意
二 道理辯明
三 高法論
四 習慣論
五 習見ノ事業ハ目的ヲ達スルカ目的ヲ達スルカ
六 經濟論
七 政治ノ行政
八 普衆衆
九 人民共同ノ主意
十 道理ハ辯明ヲ務ム

二百人

一 高法論
二 習慣論
三 習見ノ事業ハ目的ヲ達スルカ目的ヲ達スルカ
四 經濟論
五 政治ノ行政
六 普衆衆
七 人民共同ノ主意
八 道理ハ辯明ヲ務ム

一 高法論
二 習慣論
三 習見ノ事業ハ目的ヲ達スルカ目的ヲ達スルカ
四 經濟論
五 政治ノ行政
六 普衆衆
七 人民共同ノ主意
八 道理ハ辯明ヲ務ム

一 高法論
二 習慣論
三 習見ノ事業ハ目的ヲ達スルカ目的ヲ達スルカ
四 經濟論
五 政治ノ行政
六 普衆衆
七 人民共同ノ主意
八 道理ハ辯明ヲ務ム

一 高法論
二 習慣論
三 習見ノ事業ハ目的ヲ達スルカ目的ヲ達スルカ
四 經濟論
五 政治ノ行政
六 普衆衆
七 人民共同ノ主意
八 道理ハ辯明ヲ務ム

一月八日 各務郡知合村

一 高法論
二 習慣論
三 習見ノ事業ハ目的ヲ達スルカ目的ヲ達スルカ
四 經濟論
五 政治ノ行政
六 普衆衆
七 人民共同ノ主意
八 道理ハ辯明ヲ務ム

五十人

一 高法論
二 習慣論
三 習見ノ事業ハ目的ヲ達スルカ目的ヲ達スルカ
四 經濟論
五 政治ノ行政
六 普衆衆
七 人民共同ノ主意
八 道理ハ辯明ヲ務ム

一 經濟論

一月廿七日	原見郡岐首町	油新大敵ノ基 一政府ヲ復讐ス 一人民義勇ノ説 一政事ノ行政 一吾輩衆	三		
一月廿八日	羽栗郡竹鼻村	一我國ノ大事件 一農工商ノ三民ノ 一政治ノ目的 一明治元年ノ高日 一五條ノ詔書 一愛國ノ親戚ノ主 一人民共同ノ主 一人民ノ國ノ基 一自由ノ重キヲ論ス 一道理ヲ辨ス 一政治ノ人民ノ衣裳 一物ヲモ五分ナラ 一我ニモ五分 一聴衆ニ告ク 一卑屈ノ民ハ三條ニ 一類ニナラズ	一 二 三 四	二百一人 六十一人 三百五十人	
二月廿四日	文八郡大垣町	一我ニモ五分 一聴衆ニ告ク 一卑屈ノ民ハ三條ニ 一類ニナラズ 一我ニモ五分 一聴衆ニ告ク 一卑屈ノ民ハ三條ニ 一類ニナラズ 一言論ノ不幸ノ社 一會ノ不幸	四	百十人	

二月九日	武儀郡上野村	一聞共立義會之聲 有感 一明治十一年ヲ迎フ 一新聞紙ノ演説効用 一國會開設準備 一專制政治ノ代議 一政体ノ別 一憲制ニ法律ト權力 ト別ニテ論ス	八早川啓一 全郡勝野村全氏 九河合繁吉門	三百人 四百人	
二月七日	山縣郡高富村	一沿者ノ専横ヲ制ス ルノ備具 一物々分胃ノ弊ヲ害 一薩ハ國家ノ命子	此早見郡見取鏡 島村幸氏 上馬淵十郎 全島羽栗郡中野村全氏 三田島鹿之助	十人 十人	
二月七日	原見郡岐首町	一時ノ説 一入村平均論 一田舎衆 一石地蔵ニ亦面目ヲ 加フ	全島羽栗郡春道村全 氏 三井上伴二 六	百五十人	

二月廿六日	二月廿七日	二月廿六日ヨリ 二月廿七日ヲ	二月廿一日	三月四日 三月五日	三月十一日 三月十二日
豊見郡政事所	飛騨國大野郡高富	全	上	燕郡高富村	土岐郡多治見村
國會開設準備 國會國人代行協	三權鼎立論 切カ 一方今多急務	演説ノ効力 人情書傳論	新刑法犯罪法義 一結合ノ効力	一熱心ノ効用 一社會ノ幸福 一人民ノ權利	一自由論
十	十	十五	十五	十五	十五
二百一人	二百一人	二百一人	四百人	四百人	四百人
一度	一度	一度	一度	一度	一度

三月廿六日	三月廿日	三月十一日 三月十二日	三月十一日 三月十二日	三月十一日 三月十二日	三月十一日 三月十二日
多藝郡島田村	羽栗郡笠松村	武儀郡関村	武儀郡関村	土岐郡多治見村	土岐郡多治見村
一反對論者口実 一國ノ状態ニ家ノ 一状態ニ異ナリ	一手前味噌ハ老是之 ヲ謂フ秋 二國ノ状態ニ家ノ 状態ニ異ナリ	一治民論 一修身論 一禽獸尚具身保護ス 一我々余カノ兄弟ニ 告ク	一愛國ノ精神 一新聞演説効能 一我々余カノ兄弟ニ 告ク	一政權ノ民權之別 一新聞演説効能 一權衡論 一日本ハ誰ノ國ゾ 一治水論 一官民一致 一地方自治論 一人民國ヲ他人ニ視ルカ レ	一政權ノ民權之別 一新聞演説効能 一權衡論 一日本ハ誰ノ國ゾ 一治水論 一官民一致 一地方自治論 一人民國ヲ他人ニ視ルカ レ
九	六	十一	十三	十五	十五
百四十人	七十人	七十人	七十人	七十人	七十人
一度	一度	一度	一度	一度	一度

四月廿九日 四月三十日	飛騨國大野郡高町	一 開明治子之結誓有感 一 頼公之元ヲ頼ム勿レ 一 果會議之再告ス 一 演説ノ効能 一 戦争論 一 志操論 一 人民タル職分 一 結合論 一 民権論	七	岐阜県大野郡池村士族 廿九 佐久間五三郎 石川県金山区尻無坂通士 族 三十 田辺成之	二百人
四月十三日	厚見郡豊真町	一 日本魂ノ辨 一 卑劣ナル者 一 過激主義ハ何カノ 辺リ 一 板垣君死トモ自由セズ 一 政府ノ自又 一 何ナル者ヲ真ノ英雄 トイフ 一 德謀者馬脚ヲ露ス ヲ加ス	二千	全県全邑村本専士族 三十一 堀順信 大坂西區三條通子自寄 留平氏 州二 城山静一 高知県佐郡小高坂村族 州三 安藝清香 全郡瀬江村上所士族 州四 宮地茂春 京都府宇治郡岩倉村平 民 州五 小室信介 高知県土佐郡南条公平 士族 州六 上岡美枝 岐阜県山県郡高富村 士族 州六 杉山小五郎 滋賀県大上郡彦根藩 甲斐氏 州八 小倉英之 愛知県渥美郡田原村平 民 州九 鈴木鹿介郎	二十人

五月七日	不破郡赤坂村	一 反對論 一 自由ノ真理 一 腕力論 一 民権論 一 精神論 一 何者カ社会ヲ改良 スルコ	二十 四十	愛知県津島郡上重村士 族 四十 内藤六四郎 岐阜県守山郡河渡村平 民 四十 後藤秀一 全県厚見郡今泉村士 族 四十二 本多政直	七十人	一度
五月五日	武儀郡関村	一 精神論 一 武術ノ効用 一 國民ノ義務 一 權利ノ分柝	四十 四十一	十 十一	五十人	
五月四日 五月六日迄	郡上郡中坪村	一 万国公法 一 人民ハ國ノ基 一 人民共同ノ主意 一 愛國人民ノ愛ヲ論 一 自由ノ重キヲ論ス 一 道理ハ辨ヨリ強シ 一 愛國交親社創立趣 意解 一 經濟論 一 豫防論	二	一	七十七人	

六月十四日 厚見郡岐阜町	一 護身論 一 男児事業の目的ヲ 達スルカ目的ニ死スル 論 一 似タモノノ論				
	一 一日ノ感ヲ述ブ 一 論以男之主要併敢 異論者				
	一 地方分権論 一 三五官威嚇アルハ 第一何ノ用カ				
	一 百聞一見ニ如カス 一 政治ノ要				
	一 猜疑ノ反射 一 朝廷自ラ責ムヲ大ニ スルヲナカレハ				
	一 欲帯ノ利害 一 正理ノ獨歩ヲ望ム				
		新野県吉野郡長岡新町 孝民 四十五池田田田豆志智 孝民	六		
		岐阜県安部郡池村孝民 甲六佐久間国三郎 全山豊見郡鏡島村孝 民 甲七馬淵三郎	十四		
		岐阜県大藏村孝民 四十四山崎孝太郎	十一		
		岐阜県大藏村孝民 四十三堀部義徳	七		不洋

六月廿九日 安八郡大垣町	一 政論ノ中心 一 政論上ノ武器 一 官民ノ調和ヲ計ル方 法如何 一 政党ハ時勢ニ因リ興 ナルヲ論ス 一 特別警察官設置 論				
	一 一縣官ト縣民ノ干係 一 政府ノ強弱ヲ論ス 一 孝貞ハ貴重スルニ 足ラカル乎				
六月廿六日 厚見郡岐阜町	一 愛情論 一 地方ノ政務界ノ改良ヲ 一 政治ノ器具				
		岐阜県本巣郡真栗村 孝民 甲八福田十郎 全山山縣郡平井村平 民 甲九梅田英一	廿八		不洋
		東京本郷区本郷三丁目 士族 五十青木匡 全府芝区櫻田泉孝孝民 五十一肥塚 龍	十二		
			五十一		四百人
			五十		
			六		
			七		
			廿九		
			五十一		不洋
七月三日 多藝郡島田村	一 日本ノ幸福 一 内治ノ改良セザルハ國權 ヲ擴張スル能ハス				
			五十		

七月四日	羽栗郡竹鼻村	一政治家項門ノ反對 一政治ト人民トノ千係 一富國策 一寺院ノ演説会場賣 カル風前果ノ信狀 一政党ノ必要 一政体ノ最善良ナル モノハ何カ 一誰カ開明國徳義ヲ 無用ナリト謂欲 一政党ノ團結 一容飾ノ開化ニ安ス ル勿レ 一政主義 一精神論 一新聞紙論 一仙國海血汐ノ灘	四十八 十一 七 四十六 五十一 五十九 廿九 廿三 四十二 十 五十三	不詳
八月廿八日	山県郡高富村	一爲政者ノ注意 一汝ハ汝ナリ我ハ我ナリ 一日本人何リ服ヲ好マ 一山河草木心ハ如何 一日本人民ニ告ク 一政府ト人民ト千係 一權衡論 一人カ以テ時勢ニ抗セ ザレバカラス 一演説ノ主義 一卑屈病ノ流行病和告 一政治ハ時勢ニカカラス 一一致結合ノ利 一日本人民ノ準備 一兜軍記ヲ流シ感アリ 一國民ノ自由ヲ得ルニ參 政權ヲ得テ物ヲ生シ	京都府乙訓郡寺尾村 五十四 上田重徳 京都府之京近第廿二組ノ船入 町 五十五 袖岡貴久郎 山県郡高富村 五十六 林淳一 全上士族 五十七 菅井三九郎 山県郡高富村 五十四 五十五 五十七	四百五十人 三百七十人

九月十七日	惠那郡中津川村	一誰カ吾人人民ヲ愚 ナリト云フ哉 一官民ノ致スニハ國威 輝カス 一分限論	京都府乙訓郡寺尾村 五十四 上田重徳 京都府之京近第廿二組ノ船入 町 五十五 袖岡貴久郎	四百五十人 三百七十人
九月廿二日	全 上	一爲政者ノ注意 一汝ハ汝ナリ我ハ我ナリ 一日本人何リ服ヲ好マ 一山河草木心ハ如何 一日本人民ニ告ク 一政府ト人民ト千係 一權衡論 一人カ以テ時勢ニ抗セ ザレバカラス 一演説ノ主義 一卑屈病ノ流行病和告 一政治ハ時勢ニカカラス 一一致結合ノ利 一日本人民ノ準備 一兜軍記ヲ流シ感アリ 一國民ノ自由ヲ得ルニ參 政權ヲ得テ物ヲ生シ	京都府乙訓郡寺尾村 五十四 上田重徳 京都府之京近第廿二組ノ船入 町 五十五 袖岡貴久郎 山県郡高富村 五十六 林淳一 全上士族 五十七 菅井三九郎 山県郡高富村 五十四 五十五 五十七	四百五十人 三百七十人
九月廿三日	惠那郡苗木村	一爲政者ノ注意 一汝ハ汝ナリ我ハ我ナリ 一日本人何リ服ヲ好マ 一山河草木心ハ如何 一日本人民ニ告ク 一政府ト人民ト千係 一權衡論 一人カ以テ時勢ニ抗セ ザレバカラス 一演説ノ主義 一卑屈病ノ流行病和告 一政治ハ時勢ニカカラス 一一致結合ノ利 一日本人民ノ準備 一兜軍記ヲ流シ感アリ 一國民ノ自由ヲ得ルニ參 政權ヲ得テ物ヲ生シ	京都府乙訓郡寺尾村 五十四 上田重徳 京都府之京近第廿二組ノ船入 町 五十五 袖岡貴久郎 山県郡高富村 五十六 林淳一 全上士族 五十七 菅井三九郎 山県郡高富村 五十四 五十五 五十七	四百五十人 三百七十人
九月廿四日	惠那郡苗木村	一爲政者ノ注意 一汝ハ汝ナリ我ハ我ナリ 一日本人何リ服ヲ好マ 一山河草木心ハ如何 一日本人民ニ告ク 一政府ト人民ト千係 一權衡論 一人カ以テ時勢ニ抗セ ザレバカラス 一演説ノ主義 一卑屈病ノ流行病和告 一政治ハ時勢ニカカラス 一一致結合ノ利 一日本人民ノ準備 一兜軍記ヲ流シ感アリ 一國民ノ自由ヲ得ルニ參 政權ヲ得テ物ヲ生シ	京都府乙訓郡寺尾村 五十四 上田重徳 京都府之京近第廿二組ノ船入 町 五十五 袖岡貴久郎 山県郡高富村 五十六 林淳一 全上士族 五十七 菅井三九郎 山県郡高富村 五十四 五十五 五十七	四百五十人 三百七十人

九月廿五日	惠那郡中津山村	一 国家堂閣領子 ニヤ 一 立憲專制兩國ノ顯 像	五十四	三百五十人
九月廿六日	全 上	一 自得論 一 政治八時変セリカラス 一 後ルハ人ニ制セラレ 一 花觀ヲ花ヲ美カク 一 政体ハ獨時計ナクシ 一 馬ノ身ニ風 一 結合一致ノ効 一 国家開明進一ノ實史 一 益少ク分役人増多ク己 一 政府ト人民ノ干渉 一 官民一致セシメテ國威輝 カス	五十五 五十七 五十八 五十四 五十五 五十七 五十四	六十人
十月二日	惠那郡岩村	一 卑屈病ト流行病ノ 利害 一 誰カ各人ノ民ヲ愚ク トスフヤ	五十四 五十五	二百八十人
十月三日	全 上	一 花見ヲ花ヲ美カク 一 人民医者保障如シ 一 團結ノ効 一 第一等ノ政治者トハ誰 ナラヤ	五十五 五十四	二百七十人

十月廿八日	惠那郡中津山村	一 流憲帝政黨議綱 領 一 民間豈夫人ナキヤ ナヤ 一 我國政况ノ現況	長野県北安曇郡会津村 五氏 六十内山重二郎	百二十人 一度
十月廿日	安八郡今尾村	一 自由ヲ汝名ヲ藉リテ 何意事ヲ為カラン 一 石川某会ヲ論ス 一 岐阜某臨時会ヲ論ス 一 政黨ノ組織ヲ論ス 一 政黨論 一 被治者主權者ヲ論ス 一 果下人民ニ對ス	東京府神田区五軒町三族 六十一小室和	三十人
十月廿日	全 上	一 自由ヲ汝名ヲ藉リテ 何意事ヲ為カラン 一 石川某会ヲ論ス 一 岐阜某臨時会ヲ論ス 一 政黨ノ組織ヲ論ス 一 政黨論 一 被治者主權者ヲ論ス 一 果下人民ニ對ス	七 九 廿九	

十一月三日	安八郡大垣町	一千游保護ノ契 一代議士選挙法新 一日暮ニ送達ノ歎 一官民ノ責任ヲ論ス	岐阜県安八郡蛇池村 六三近藤壽三郎 合上 六三佐久間三行	五百人	
十一月十八日 十一月十九日	惠那郡岩村	法律自由動カハ 一洋書ヲラ日本籍ヲ 高レヒムキノ論 一中立解副局創立望 ハ附皮相論 一法律ト道理ノ強弱 一明治廿年近ニトス	愛知県名古屋区新柳亭 士族 六十四光田第一 百五十人	九	
十一月廿日	惠那郡中津川村	一津川諸君ニ告クル一 事 一整言察權ノ本性ヲ論 ス 一政事ト諸他學術ト進 度ノ比較 一外交政界論 一異心同志者以テ政党 ヲ考メ之ヲ百ノ政党 ト稱スハトマ	石川県 六十六星野三郎 熊本県士族 六十七坂田哲太郎	百〇九人	一度
十一月廿一日	全 上	一其本備ラレハ未成ラ ス 一自由ノ真理ハ人知ラ 以テ禁遏スハラス 一外交政界論第二 一外交政界論第三 一鷄鳴ニ曉テ報ヲ獨氣 中ニアル母レ	六十六 五十六	百三十人	

十一月廿三日	全 上	一其本備ラレハ未成ラ ス 一自由ノ真理ハ人知ラ 以テ禁遏スハラス 一外交政界論第二 一外交政界論第三 一鷄鳴ニ曉テ報ヲ獨氣 中ニアル母レ	六十六 六十六	百人	
十一月廿四日	全 上	一結果論 一隱顯ト有無ニ別 一反動論 一洋書ヲラ日本籍 ヲ論ジヒキ論	六十四 六十五 六十五 六十四	十八人	
五十度	十八ヶ處	二百二十八題	六十七人		五
十二月中八開會無之					

明治十六年 自一月至六月 政談演說會一覽表 前表三三

開會月日	會場	演題	演說者	聴衆概數	解散度數
一月廿二日	惠那郡津川村	一 立憲政体論 二 政治の多きヲ要セス	大坂府西成郡津村平民 一 甲田 良造	三〇〇	〇
一月廿三日	惠那郡津川村	一 自得論 二 國家疾病ノ療方 三 學藝上政治ノ進歩ニ 連連ルヲ論ス	惠那郡津川村平民 二 菅井三九郎 三 林 淳一	二九〇	〇
一月廿四日	惠那郡津川村	一 五法論 二 成物ト思ハザル今ノ世 三 明治十五年ヲ送テ 十六年ヲ迎テ	三	二〇〇	〇
一月九日	安郡大垣中町	一 議院ヲ論ス 二 正義ヲ載シ後ニ守ル	東京府平民 北區大塚町三番地 四 河津祐之 五 山石 田徳義	一	〇

四月三日	早見郡此草町	一天背ク勿	大和町長東長町三番地 早川啓一
		一政府ヲ支配スル者ハ法律ヲ以テ之ヲ善ク可クス	滋賀縣早見郡此草町 早川啓一
		一改進黨ノ風潮ヲ防止スル地防ヲ今日ハ之ヲ増進スル時ヲ持テ破壊スル地	滋賀縣早見郡此草町 早川啓一
		一和国ハ尚人身ノ如シ	滋賀縣早見郡此草町 早川啓一
		一聞童子之談有感	滋賀縣早見郡此草町 早川啓一
		一政黨討論	滋賀縣早見郡此草町 早川啓一
		一行政推論	滋賀縣早見郡此草町 早川啓一
五度	三ヶ處	二十題	十二人

政社ノ状況

方今岐阜縣廳ノ認可ヲ受ケ團結セル政社ナシト虽尺少
 年輕躁ノ輩或ハ改進黨ト唱へ或ハ自由党ト称シ東京ノ
 政社ト聲気ヲ通スルモノアリ且ツ下賤ノ人民名古屋ノ
 愛國交親社ニ加入スルモノ多シ其狀況ハ縣廳ヨリ差出
 レタル別紙各党人負其狀況書ニ詳ナルヲ以テ添テ参考
 ニ供ス